

近畿大学中央図書館の利用者教育について

レファレンス課 中尾 民子
収書・整理課 栗原 さとみ

1. はじめに

中央図書館では、図書館利用者に対して、図書館オリエンテーションをはじめ、図書館ツアー、基礎ゼミ対象ガイダンスでの図書館の利用指導、体験講座として、図書・雑誌などの資料検索法、データベース検索法などの指導を活発におこなっている。しかしながら、

『図書館利用者教育ガイドライン（大学図書館版）』（1998年日本図書館協会原案）に沿って検討した場合、「情報検索指導演法」の情報検索ストラテジーの立て方（一般的、専門的）の専門的分野での「情報整理法指導」、「情報表現指導」をどのように高め展開させていくかが今も大きな課題となっている。

当館の利用者教育ワーキンググループでは、平成15年度のシステム変更以来、思考錯誤を繰り返しながら、情報リテラシー教育を積み重ねてきている。しかし、利用者教育ワーキンググループの運用については、中心メンバー11名と中央図書館事務部の各課から担当者を割り当てているため、年度始めの通常業務と4,000名の参加者に対応する4、5、6月のゼミ・個別の利用者教育が重なるため、館員は繁忙を極めることになる。一息ついた現時点で春期の活動を省みるとともに、秋期に向けての展開を見ていくことにしたい。

2. 利用者教育の実施概況

平成19年度春期開催日程

図書館ツアー 4月16～21日

通信教育部 図書館ガイダンス 4月29日

基礎ゼミ対象図書館ガイダンス 4月～6月

データベース体験講座 6月11～16日

(参加者数についてはp14参照)

a. 図書館ツアー

- ・中央図書館3～5階閲覧室の施設・設備の利用案内をおこなった。
- ・学生が参加しやすい時間割（昼食時間も開催）、予約不要とし22回開催した。
- ・所要時間30分コース〈3～5階閲覧室〉、40分コース（書庫内も案内）の自由選択とした。

b. 通信教育部図書館ガイダンス

通信教育部オリエンテーションに、図書館ガイダンスの時間を割り当ててもらい、図書館の簡単な案内をおこなった。さらに、オリエンテーション終了後に自由参加の形式で、図書館ツアー、OPAC（蔵書検索システム）講習をそれぞれ20分おこなった。（通信教育部は学生証番号で図書館を利用できないため、新たな図書館利用者IDの登録をしなければならず、登録の際の混雑が予想されたが、閲覧係との連携によりスムーズにおこなうことができた）図書館入り口で、ツアー参加者を数人ずつ、順次案内していったので待ち時間も少なく、スムーズにツアーとOPAC（蔵書検索システム）の検索法を指導した。

c. 基礎ゼミ対象図書館ガイダンス

1年生必修の「基礎ゼミ」の時間に実施している。内容は授業時間90分の半分をOPAC（蔵書検索システム）の検索法や「中央図書館ホームページ」の紹介を行い、半分を館内見学ツアーとして行っている。このガイダンスは全「基礎ゼミ」に実施する体制ではなく、希望する担当教員が申請を行うことになっている。中

請数は年々増え続け、今年度は194ゼミ、3,298名の参加となった。

3・4年ゼミを対象としたガイダンスは随時受付けており、内容も各ゼミによって異なるが、主にその学部に関連したデータベース講習等を行っている。担当は

ほとんど図書館全職員が当たり今年度は総勢24名が着いた。

d. データベース体験講座

年間、春期と秋期に分けて、図書館が主催で実施している。

a. 図書館ツアー

	平成17年度	平成18年度	平成19年度
実施回数	9	17	22
参加者数	48	65	106
回数平均	5.3	3.8	4.8

b. 通信教育部図書館ガイダンス

	平成18年度（春）		平成18年度（秋）		平成19年度（春）	
	図書館ツアー	OPAC紹介	図書館ツアー	OPAC紹介	図書館ツアー	OPAC紹介
実施回数	4	4	4	4	4	4
参加者数	58	36	49	24	87	52
参加比率	30.9	19.1	64.5	31.6	43.1	25.7

※通信オリエンテーション参加者約188名内 ※通信オリエンテーション参加者約76名内 ※通信オリエンテーション参加者約202名内

c. 基礎ゼミ対象図書館ガイダンス

	平成17年度	平成18年度	平成19年度
申請件数	136	164	180
申請ゼミ数	144	173	194
参加者数	2,422	3,009	3,298
申請教員数	123	145	171

※2年生から4年生のゼミ含む

d. データベース体験講座

	平成18年度（春）		平成18年度（秋）		平成19年度（春）	
	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数	実施回数	参加者数
OPAC	4	12	2	7	4	35
雑誌論文	5	32	5	17	4	47
新聞記事	3	11	5	41	3	33
法律（初級）	3	12	3	11	3	26
法律（中級）	2	5	2	3	2	9
計	17	72	17	79	16	150

(平成19年6月末現在)

平成19年度春期データベース講座の内容

講座名	内容および使用するデータベース
図書・雑誌	OPAC（中央図書館蔵書検索システム）の基本的な検索方法や各種機能の説明。
雑誌論文	雑誌・研究紀要に掲載された日本語の論文を探す際の基本となる検索ツールである『CiNii』をはじめ『JDream II』（科学・技術分野の文献）や、『Web OYA-bunko』（週刊誌、情報誌系記事）の検索方法を説明。
新聞記事	『日経テレコン21』（日経4紙の記事検索）や『開蔵II ビジュアル』（朝日新聞記事検索）などを使って、新聞記事の検索方法を説明。
法律関連情報 （初級）	法令、判例の説明をはじめ、『LEX/DB』（判例データベース）や『法律情報文献月報検索サービス』などのデータベースの検索方法を説明。
法律関連情報 （中級）	『第一法規法情報総合データベース』や『LEX/DB』（判例データベース）や『法律情報文献月報検索サービス』を利用して、問題演習を中心に講座を進める。

講義時間は演習を含め1時間である。昨年度からは事前予約なしで参加できる。学生は授業の空き時間を利用しての参加になるため、参加人数は開催日時によってばらつきが見られるが、予約なしになってからは増加している。担当は閲覧業務委託スタッフと職員が着いた。

3. 平成19年度の取り組み

①事前準備

- ・ 日程の決定は前年度に従った。
- ・ 担当者
図書館ツアー、通信教育部図書館ガイダンス、データベース体験講座は職員と閲覧業務委託スタッフで対応し、基礎ゼミ対象図書館ガイダンスは図書館職員で対応した。
- ・ 基礎ゼミ対象図書館ガイダンス
開催時期はやはり4月中旬から5月中旬に集中する。「基礎ゼミ」は授業として時間帯が決まっているため、学部に関係なく時間が重なる。授業1コマで最大4ゼミを受け入れる体制にしてい

るが、希望日がすでに予約済の場合があり、何週間か先になることもある。担当職員も1日2コマとか、連日担当することになる。今年度より担当職員が教員へガイダンス内容の確認や当日の打合せを行うようにした。そのため実施日の2週間前までに申請していたくようにした。（昨年度までは1週間前まで）

・ データベース体験講座

開催は『体験講座week』と銘打って月曜から土曜日まで日に3講座（土曜は2講座）設けた。デモ担当1名と補助2名が着いた。

②各講座開催のPR

参加者の数はPRの如何に関わるため、できる限り早くからPRを開始した。「基礎ゼミ対象図書館ガイダンス」では、全学部への案内文書の配布をおこなった。「データベース体験講座」については、基礎ゼミガイダンス内でのPR、また、

数種類のポスターを作製し、その組み合わせによる掲示でアピール効果を狙った。その他、開催当日の学内アナウンス、学生の集まる場所でのPRとしてKUDOS電光掲示板での案内など、前年度よりも積極的にPR作戦を展開した。

- ③マニュアル作成と担当者の打合わせ
各講座とも前年度のマニュアル改善をおこなった。

4. 参加者・担当者アンケート調査

参加者アンケート結果では、概ね好評を得た。担当者アンケート結果では、参加者数が増加したことを良しとする反面、例えば今年度取り組みとしての担当者打合わせに十分時間を取る方向性であったが不十分に終わった、など、改善の余地有りとな様々な反省点と改善点が寄せられている。アンケート調査の結果については、後日報告する予定である。

5. 現状と課題

- ①参加者数が増加した。
基礎ゼミ対象ガイダンスについては教員・学生とも概ね好評であった。
実施状況表を参照
- ②設備・環境面の改善が必要
多人数に対応できる設備が図書館にないため、パソコン台数の不足、プロジェクターが見づらいなど、デモの成果が出にくかった。
閲覧室が狭いため、基礎ゼミのツアーの時間帯が重なると案内しにくい。
データベースへのアクセス数が少ない。(データベース体験講座)
- ③参加者の意識
個別参加型と基礎ゼミ授業での参加では、両極面を見せている。
- ・「図書館ツアー」、「データベース体験講座」の個別参加型の場合は、熱心に聴いている、一人で数講座に参加するなど、積極的である。

・「基礎ゼミ対象図書館ガイダンス」の場合は、1回の参加人数が多いため、図書館にとっては、一度で多人数の学生に利用者教育をおこなうことができ、学生にとっても、実際館内を見て回ることによって利用しやすくなるなど、大いに利点がある。しかし、授業として参加する(半ば強制的?)ため、まじめに聞かない、居眠り、お喋りなど、不真面目な点が多く見受けられるため、担当者としてはガイダンスがやり難くなる。そういった状況については、担当者も学生に注意を促すようにするが、教員からも学生に注意していただきたいという、担当者からの意見が多かった。

また、ガイダンスの前後に、教員の指導として学生へのアドバイスなどを入れていただくことで、基礎ゼミとしての方向付けも生きてくるのではという担当者からの意見も多かった。

6. 今後の展開

利用者教育ワーキンググループでは8月27日までに秋期のデータベース体験講座及び、次年度に向けての利用者教育の改善案を提出し、8月31日に決定した。

- ①平成19年度秋期データベース体験講座については、春期とは異なる方向性で企画。外部データベースの可能なものについては外部講師に依頼すること、総合的な資料の探し方+便利なデータベースの紹介・検索法(チャートでみることができ)の2案で検討していくことになった。
- ②基礎ゼミ以外のゼミ対応については、春期に対応した担当者のパワーポイントによるプレゼンテーションを参考に、秋期に向けての対応を検討している。

7. 情報リテラシー教育と館員

今年度の「基礎ゼミ対象ガイダンス」を開始した頃から、図書館閲覧室のカウンターには、OPACや、データベースの検索法について

の質問が多くなり、利用者も増加した。これは、「基礎ゼミ対象ガイダンス」でデータベースを利用すれば便利であることを知り、実際に色んなデータベースを検索してみようという学生の積極的な態度の表れであり、データベース検索を利用したレポート課題を出された教員がおられたことなどが大きな要因としてあげられる。このことは利用者教育が学生、教員、館員の協力と連携がいかに重要であることを示している。これからの秋期講習会でも館員の熱い意気込みを、教員や学生に伝えたい。ご協力よろしくお願いします。

